

# 公益財団法人滋賀県国際協会 第2期中期計画の概要

## 第1章 はじめに

### 1 策定(改定)の背景

#### <協会活動の経緯>

- 2011年(平成23年)に公益財団法人移行
- 県内の国際活動推進の中核的組織として様々な事業を実施

#### <協会を取り巻く社会状況>

- 依然多くの外国人住民(23,833人)が暮らしている。
- そのような中で、アジア各国の技能実習生の受け入れなどによる出身国籍の多様化／「永住者」等の増大など生活者としての外国人の増加／留学生の増加

#### <協会経営を取り巻く環境>

- 合併により組織・機能が拡大した市町国際協会との役割分担と連携強化の必要性の増大
- 改定された「滋賀県多文化共生推進プラン」を踏まえた県事業との連携
- 県の「滋賀県行政経営方針」等に基づき、求められる効率性、柔軟性、専門性の一層の発揮

#### <策定にあたって>

- 上記社会状況・経営環境等を踏まえ、事業を総合的・計画的に推進するための計画とする。

### 2 計画期間

- 2016年度(平成28年度)から2020年度(平成32年度)まで

### 3 現状と課題

#### <国際感覚に優れたひとづくり>

- 世界のグローバル化、ボーダレス化の進展の中で、国際社会の一員として連帯意識、多様性を受け入れる姿勢が重要
- 特に、グローバル人材としての子どもたちの養成が重要(世界情勢に関する知識、コミュニケーション能力、異文化受容力、世界の人々と協力する能力等)

#### <多文化共生の地域づくり>

- 超高齢社会、人口減少社会の中で、外国人住民の活躍への期待と多文化共生社会の一層の推進
- そのために、外国人住民、特に子どもたちへのコミュニケーション支援、学習機会の充実が重要
- 地域防災の「共助」の担い手という視点に立った啓発・防災訓練が必要
- 多文化共生の地域づくりへの県民理解が重要

#### <ボランティア、市民活動団体との協働>

- 活発である県内のボランティア活動、市民活動団体等の活動を踏まえ、県民、市民活動団体、企業、行政の特性を活かした協働の視点が重要
- ニーズの高いボランティア活動への働きかけや情報提供が重要

## 第2章 協会の運営方針

### 1 協会理念

国際交流の積極的な推進と県民の国際理解の深化により、誰にとっても暮らしやすい、豊かで活力に満ちた魅力ある地域づくりに貢献する。

### 2 協会の強み

協会の強みとして、これまでの各種取組に通じて培われた、「情報力」「協働力・ネットワーク力」「専門性」の3つが挙げられる。

## 第3章 事業計画

### 1 テーマ

#### 「次世代のひとづくり～活力に満ちた地域社会づくりを目指して」

次世代を担う人材育成を支援していくとともに、外国にルーツを持つ子どもたちを含め、誰もが安心して生き生きと暮らし活躍できる地域づくりを行うことにより、豊かで活力に満ちた地域社会の実現を目指す。

### 2 事業展開の方向

- 情報収集・発信の強化  
(先駆的な取組・人材の情報収集・強化／情報交換の場の設定／リーディング事業の調査・研究など)
- サポート機能の強化  
(市町協会・市民活動団体等への支援／日本語教室等外国人住民支援団体等への支援／今後の支援策の検討など)
- パイプ（橋渡し）機能、コーディネート（調整）機能の強化  
(中間的組織として行政情報と市民活動団体等の要望の橋渡し／外国人住民の実態・必要な支援策の吸い上げ／県民・市民活動団体、企業、行政のネットワーク化・調整など)

### 3 事業計画

#### (1) 国際感覚に優れたひとづくり

- ・ 国際教育研究会、教育委員会等と連携した学校教育における国際教育の普及
- ・ 海外滞在経験者・外国人等が持つ情報の蓄積と活用
- ・ ミシガン州立大学連合日本センターの国際交流・異文化体験等の場としての活用等

#### 【重点的施策】

##### ◎学校現場での国際教育への支援

学校の総合学習などへの講師派遣・教材貸出を積極的に推進し子どもたちの国際感覚を高めるとともに、教員研修等への講師派遣し、学校現場において自ら国際教育を実践できる教員の育成を図る。

指標	2015年度実績値	2020年度目標値
これまで国際教育支援を行った県内学校数 (学校数比率)	192校 (46.6%)	206校 (50%)

##### ◎ミシガン州立大学連合日本センターを活用した地域交流

滋賀県とミシガン州および日米両国の友好関係を深めるため、当センターを広く地域に開かれた国際教育交流の拠点として、積極的な地域交流活動を行う。

指標	2015年度実績値	2020年度目標値
地域交流事業への参加人数	1,210人	1,350人

#### (2) 多文化共生の地域づくり

- ・ 相談窓口での外国人住民支援や、支援策・多文化共生に関する相談や情報提供
- ・ 外国にルーツを持つ子どもたちの進路や職業選択の支援
- ・ 外国人住民に対する防災知識の普及や地域防災の担い手として育成

#### 【重点的施策】

##### ◎外国人(特に子どもたち)の自立と社会参画のための教育支援

関係団体と連携しながら、外国にルーツを持つ子等を対象に進路ガイダンス・職業人と語る会を開催し、進路・職業選択の支援を行う。開催に当たっては、より多くの子どもたちが参加できるよう、開催時期・回数・場所の検討、効果的な広報を図る。

指標	2015年度実績値	2020年度目標値
----	-----------	-----------

進路支援に関する事業参加学校数	16校	25校
-----------------	-----	-----

### ◎防災から広げる共生のまちづくり

外国人住民が地域の防災活動に参加し、地域の一員として地域防災となるための取組を支援し、これを契機にして様々な分野での相互交流の拡大を図る。

指標	2015年度実績値	2020年度目標値
外国人住民が参加する防災活動の件数 (当協会が開催に関わったもの)	1件	5件

### (3) ボランティア、市民活動団体等の活動促進

- ・ 関係機関との連携・情報収集によるボランティアへの情報提供
- ・ 市民活動団体等の活動を促進するためのネットワークづくり・研修機会の提供
- ・ JICA との連携

### (4) 情報収集・提供による環境づくり

- ・ 情報誌、ホームページ・SNS 等による身近で親しみやすい情報発信
- ・ 日本語教材、国際教育教材等を中心に据えた情報収集・提供
- ・ 利用しやすい国際情報サロンの環境づくり等

### 【重点的施策】

#### ◎ホームページ、国際情報サロン等を活用した情報発信の強化

県民がアクセスしやすいホームページづくりと、SNS を活用した情報提供に努める。国際情報サロンの市民活動団体等への積極的な貸出しと県民が訪れる拠点への整備を行う。

指標	2015年度実績値	2020年度目標値
ホームページアクセス数（年間）	33,822件	40,000件

指標	2015年度実績値	2020年度目標値
国際情報サロンの利用件数（年間）	67件	70件

## 4 協会の基盤整備

### ○ 組織

- ・ 協会の限られた人員の中で、市町協会との役割分担を意識し、各団体支援等広域的・専門的施策へマンパワーの重点的に投入
- ・ 引き続き専門研修等への参加による職員の人材育成の強化
- ・ ミシガン州立大学連合日本センター内の彦根事務所を県東北部の国際交流拠点等して整備

### ○ 会員・財政

- ・ 積極的な会員・寄附金の募集
- ・ 市民活動団体助成金の確保や他団体との協働による事業展開